

知ってほしいな、木原のこと

ぼくたちの町、木原には素敵なおとこがたくさんあります。今日は、自然・伝統・人の自慢について紹介したいと思います。

一つ目は、町の景色がとても綺麗なおとこです。太陽で輝く海は真っ青なガラスのようです。学校の目の前には無人島のくじら島が見えます。校外学習ではたくさんのお動物を見つけてきました。ウニ、スナガニ、イソギンチャクなど、たくさんのお種類の動物たちがすめるように「これからも僕たちが頑張つて自然を守ろう」と思いました。

二つ目は、地域で受け継がれている「木原太鼓踊り」です。鐘のリズムに合わせて和太鼓をリズムカルに演奏しながら踊ったり、梵天と呼ばれる飾りを左右に大きく振りながら演じます。もともとは、雨が少なく困っていた木原の人々が龍神様に雨乞いをする踊りとして始まったそうです。ぼくたちは地域の方から太鼓踊りのこつや歴史について教わり、参観日の木原ミニコンサートで披露しました。これからも地域の伝統を受け継ぎ、さらに広めていきたいです。

最後の自慢は木原のまちの方々です。地域の方々、学校行事に参加して下さったり、木原太鼓踊りを教えて下さったりします。他にも、特産のみかんやわけぎの育て方を教えて下さいます。登下校中には、「おはよう」や「いつてらっしゃい」「おかえり」などと元気に声をかけて下さいます。今年はコロナの影響で地域の方々を学校にお呼びできなかつたけれど、来年はもっとたくさん学校行事に参加していただきたいです。

僕は、こんな木原の伝統を残しつつ、豊かでもっと住み心地のよい町にしていきたいと思っています。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第48回 —

郷土の伝統と誇り

私の住む三原市幸崎町は、人口三千人未満の小さな町ですが、年に一度、町中が大変盛り上がる日があります。それは、『能地春祭り』の日です。この祭りは、広島県無形民俗文化財に指定されていて、幸崎町の人々が守り続けてきた伝統行事です。

この祭りの見どころの一つが『獅子太鼓』です。五穀豊穡と大漁を祈願して奉納されます。宮太鼓、チャンギリ、篠笛が演奏する中を獅子が舞を踊るといいます。この獅子太鼓を後世へ引き継ぎようと活動しているのが幸崎中学校郷土芸能班です。私達が中学校に入学した当時、先輩方の活気のある力強い宮太鼓の響きとチャンギリが刻むリズム、篠笛の繊細なメロディー、更には獅子の軽やかで「生命」を感じさせる動きに感銘を受けました。今年度は、全生徒42人全員で演奏の腕を磨いています。

私は、2年生の時に、憧れの「前打ち」の担当になりました。先輩から打ち方やその技術、魅せ方を教えてもらうことはとても楽しかったです。そして、3年生になった今年、最上級生として今まで教えてもらったことを、後輩達へ一生懸命に伝えました。同級生と課題を分析し、教え方などの共有もしました。今年もコロナ禍で校外での発表の場はなく、10月のみつわ祭（文化祭）で私達3年生は郷土芸能班を引退しました。私たちにとって最後の演奏は、最高の演奏ができました。同時に、「私達は後輩へしっかりと伝統を引き継いだのだろうか」「私達は先輩方のように演奏できたのだろうか」という不安がこみ上げてきました。しかし、演奏後の達成感に満ちあふれた後輩の姿を見て、大丈夫だと確信しました。伝統を繋ぐのは人の思いです。次は、彼らに伝統を繋いでほしいです。

